



# ほ場管理の改善で、直播てんさいの収益性UP！

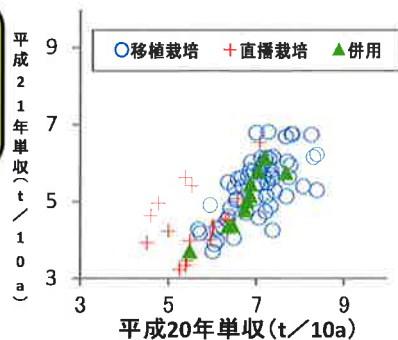
## 背景と目的

- ・直播栽培により、省力・低コスト栽培が可能！
- ・直播栽培による作付面積は拡大傾向！  
(平成26年:10,114ha 全道てんさい作付けの17.7%)

直播栽培の単収は、  
①低い(移植比15%減)  
②不安定(年次間差が大)

→安定生産が課題！

- 直播栽培の安定化には、  
どのようなほ場管理が必要？
- 適正なほ場管理による経済性は？



## 単収とほ場管理作業の特徴(十勝A町)

※十勝A町を対象にした、ほ場管理作業の調査

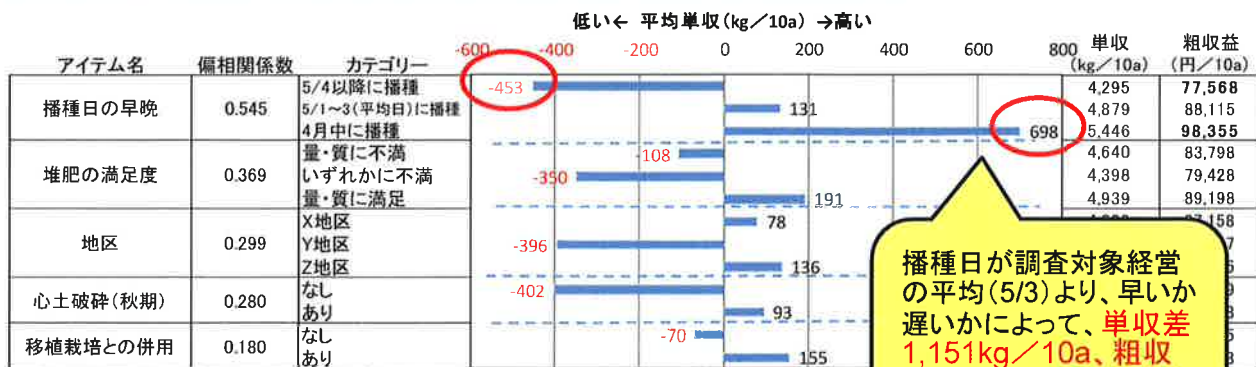
・高位経営では、播種日が早く、適切なほ場管理、堆肥利用が行われています。

単収水準 (t/10a)	戸数 (戸)	播種日 (平成 22~24 年中央 値)	心土 破碎 あり (%)	耕起			融雪剤 散布 あり (%)	堆肥 散布 あり (%)	堆肥の 投入量 (t/10a)	堆肥について		高位安定経営と低位不安定経営 の特徴(現地試験結果)				
				秋期 (%)	春期 (%)	注2) 簡易耕 (%)				十分に 確保 (%)	品質に 満足(問 題なし) (%)	心土破碎 の実施時期	土壌硬度が 1.5MPa を超える 深さ注3)	土壌 含水比 (深さ5~ 15cm)	出芽率	
全平均	4.7	24	5/3	79	79	8	13	38	100	4.0	83	58	・高位: 播種前 年に実施 ・低位: 播種当 年の春期に実 施する場合あり	・高位: 47.7cm ・低位: 30.0cm	・高位: 54.0% ・低位: 57.7%	・高位: 安定的 に90% 以上を 確保
低位	3.9	9	5/4	67	100	0	0	11	100	3.7	67	33				
中位	4.7	5	5/4	80	60	20	20	40	100	4.0	80	60				
高位	5.5	10	4/30	100	70	10	20	60	100	4.3	100	80				

注1)表記した割合(%)値は、各単収水準における集計戸数に占める回答割合を示す。注2)プラウを用いた反転耕を実施していない。注3)1.5MPa:貫入式土壌硬度計による耕盤層の判定基準

## 単収に影響するほ場管理作業と経済効果(十勝A町)

※十勝A町(32戸)における「数量化I類」を援用した分析事例



注)粗収益は、数量払単価7,260円/t(農林水産省資料)、品代10,800円/t(糖業資料)に基づいて試算した。

播種日が調査対象経営の平均(5/3)より、早いか遅いかによって、単収差1,151kg/10a、粗収益差20,787円につながることがわかります。

## 全道各地の産地での適用が可能です！

- ・同様の分析は、全道各地の産地で実施可能です
- ・「改善指導法」として整理⇒詳細は農業改良普及センターへ